

## 第 41 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	永廣ゼミⅡ	<b>チーム名</b>	ビタミン炭酸
<b>タイトル</b>	現行の年金制度と問題点		
<b>テーマ群</b>	b) 財政・金融		
<b>メンバー</b>	赤木光春・足立大和・黒川大介・阪上純平・嶋谷直高・杉野秀平・瀧上悠希 戸上勝利		
<b>研究計画内容</b>	<p>皆さんは将来受け取る年金がどのような仕組みで自分たちの手元にくるのかご存知でしょうか？日本の年金制度は非常に複雑でわかりにくいと思う人も多くいると思います。また、少子高齢化により、私たちが年金を受け取る年齢になった時には、私たちがそれまで支払った保険料の額よりも受給できる年金の額が少なくなるということや、現在よりも年金の支給対象年齢が遅くなるという話も最近よく耳にします。</p> <p>現在の日本の年金制度では賦課方式を採用しています。これは現役世代の人々が払い込んだお金を高齢世代に支給する仕組みです。しかし、少子高齢化が進んでいる日本では現役世代の負担がますます重くなっていくことから、この賦課方式を維持することは将来的には難しいと考えられます。</p> <p>そこで私たちの研究では、日本の現行の年金制度の問題点について触れ、そこから今後どのような年金制度の仕組みが望ましいのかを考えていきます。具体的には、現行の賦課方式の問題点について少子高齢化の問題と関連付けながら分析していきます。賦課方式は現在どのように機能しているのか、またこのまま少子高齢化が進めば将来どのような問題が生じてくるのかを示していきます。また、年金制度におけるもう一つの積立方式と比較することにより、賦課方式の問題点をより明確にしていきます。そして、ここで取り上げられた問題点を踏まえて、どのような年金制度がこれからの日本にとって一番望ましいのかを提案していきます。</p>		